

## お盆

お盆は、正式には『盂蘭盆会(うらぼんえ)』と呼ばれます。亡くなられた方やご先祖様が、あの世と呼ばれる世界(浄土)からこの世(現世)に戻ってくる期間のことです。故人が生前を過ごした場所、主に自宅でお迎えして再び戻っていくあの世での幸せ(冥福)を祈る機会となっています。

お盆の正式名称である盂蘭盆会は、仏教の盂蘭盆経(うらぼんきょう)というお経に由来しています。盂蘭盆経の盂蘭盆はサンスクリット語(インドなど南、東南アジアにおいて用いられた古代語)の「ウラバンナ(逆さ吊り)」が起源であり、お釈迦様の弟子の一人、目連にまつわる言い伝えを表しているのです。その言い伝えとは、亡き母が地獄で逆さ吊りの刑を受けていると知った目連が、母親を救済する方法をお釈迦様から聞くというものです。お釈迦様の教えが(旧暦)7月15日に供養するというものだったことから現在のお盆の風習が始まったとされています。

住む地域や信仰する宗派によって、お盆の風習は少し変わってきます。一般的には、盆の入り(盆入り)である13日に迎え火を焚いてご先祖様をお迎えし、盆明けの16日に送り火を焚いてあの世へ再びお送りします。仏壇にお盆飾りをし、14、15日には、家族と同じ食事を3度お供えすることが多いようです。

盆の入りを迎えたら、仏壇の前に精霊棚や盆棚をしつらえてお供えをします。

お盆飾りとしてもっとも有名なのが、きゅうりの馬となすの牛です。爪楊枝や割りばしを足にして、馬や牛に見立てたきゅうりやなすを飾ります。ご先祖様に早く帰ってきてほしい願いを込めて精霊馬(しょうりょうま)ゆっくりあの世に帰ってほしい願いを込めて精霊牛(しょうりょううし)、と呼ばれています。

お供えには、刻んだなすやきゅうりと洗った米を蓮の葉などに盛り付けた水の子、団子を積み上げるお迎え団子など、様々なものがあります。初物のフルーツや野菜、そうめん、ご先祖様の好物を供えることも多いようです。



## いわき市 夏の風物詩 『じゃんがら念仏踊り』

8月の旧暦のお盆の時に新盆の家庭をまわり、太鼓と鐘のリズムに合わせてながら念仏を唱え踊る伝統芸能。平成4年(1992)にいわき市の無形民俗文化財に指定されました。3人の太鼓を中心に、10人前後の鉦(かね)を打つものが周りを囲み、後ずさりに回りながらダイナミックなリズムに合わせて踊ります。

由来については、江戸時代初期に江戸で大流行した泡齋念仏(ほうさいねんぶつ)を17世紀の中頃に沢村勘兵衛の霊を慰めるため墓前で行ったといわれています。平泉崎の光明寺の15世紀歎順法師は沢村勘兵衛の位牌を祀り、一周忌には碑を建て供養しました。

